

ります。その後は神経が通っていたトンネルに薬を詰めるのですが、治療によって歯の原形が失われていることが多く、何らかの方法で修復しなくてはなりません。もちろん、前歯などで小さな穴を開けてそこから神経の処置ができた場合は、その穴を封鎖するだけで終了になることもあります。逆に、根だけ残して頭の部分は全くないというケースもあります。このようなケースでも歯の形に直すことができます。

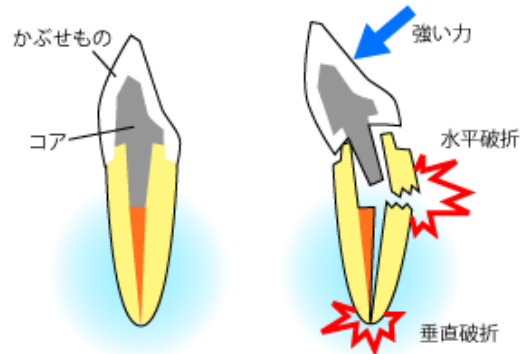
さて、原形を修復するためにはまず土台(コア)を入れていきます(上図)。これによって根の

部分と頭の部分とを結合し、その上に被せ物をして形が戻ります(いわゆる差し歯)。

問題は、この土台の足の部分です。太く長くすると外れ

にくくしっかりとした差し歯ができるのですが、使用していくことで根が割れてしまうというトラブルが多く起きてしまうのです。逆に、細く短い足だと外れやすくなってしまいます。

最近では接着剤が進歩し、細くても外れにくく出来たり、金属ではなくプラスチック系の土台もできて無理な力が加わって根が割れるリスク



を軽減するものもできています。少しでも安全で外れない歯を作りたいですが、やはりこの土台を作るといふシステムは無理があると思うんです。歯が垂直に立っていて、真上からだけ力が加わるのなら大丈夫かもしれませんが、横からの力だつて加わります。また、前歯の差し歯などは引つ張られる力には弱いです。この土台システムはもちろん全世界で行われていますが、決してベストではないということです。

そう考えると、歯の神経はやはり残しておきたいですね。個人的には、材料的な発展というよりも、歯の神経の再生などができないかなあと思つてしまいます。皆さんも歯の神経をとらなくてはならないなんてことにならないように注意してくださいね。